

平成29年4月7日、市が、計画づくり等を始めるときに、なぜ、大勢の人に声を掛ける必要があるのかについて、政策秘書課職員に話した内容です。

## 疎外感

あなたが、職場で上司の立場だったとします。  
部下から、「前から決めていたのですが、今日、全員で飲みに行くんです。都合が良かったら参加されませんか？」と誘われら、あなたはへと答えますか？



「飲み会をするなんて聞いていないから、行かない」と答えますか？ それとも、本当は予定がなくても、「今日は予定があるから遠慮しておく。またの機会には誘ってね」と答えるでしょうか？

上司であるあなたに、「私は聞いていないから、行かない」と言われてしまうと部下は困ってしまいます。部下は、誘ったことを後悔して、その日の飲み会は中止にするか、気まずい雰囲気で行うでしょう。

上司であろうと、部下であろうと、事前に誘われていなかったことに疎外感を感じます。例え、当日予定がなかったとしても、参加を遠慮する人が多いでしょう。誰でも、「事前に誘ってほしかった」と思うものです。

大勢の人を巻き込んで、新しいことをやろうとするとき、疎外感は大敵です。先に参加した人が集まって、「これは〇〇だねー」「そうだねー」と話している場に、後から参加するのは、勇気が必要です。

私たちは、自分が決めたことや自分が関わったことには、一生懸命に取り組むことができます。多くの人に「自分が決めた」「自分が関わった」と思ってもらえるようにするには、「〇〇をします」と決めてしまってから誘うのではなく、「〇〇をやりたいと思っているのだけど、どうしたらいいと思う？」と最初に相談をします。すると相談した人の分だけ、いろいろな意見、アイデアを聞くことができます。

多くの人に相談することで、一緒になって考えてくれる人を増やししながら、新しいことを始めると、行動できる仲間が増えるのです。

相談することは、面倒です。自分で決めて、自分で動いた方が早いかもしれま

せん。でもそれでは、一緒になって考え、行動してくれる仲間は増えません。時間が掛かると思われるかもしれませんが、最初から相談して、一緒に悩んで、仲間を作っていくことが、結果として、新しく始めたことが持続して、活発に活動できると思うのです。

～市長の話を聞いて～

私も、サークル等に途中から参加した経験が何度かあります。居場所がなくて続かなかったものと、楽しく続けられたものがあります。続いたのはどんなときかと思い返すと、①どうしても、自分がやりたかった ②誘ってくれた人がいた ③「疎外感」を感じさせないように心配りをしてくれた人がいた ときでした。計画づくりについては、「どうしても自分がやりたい」と思っていただけの市民の方は、そうは多くないと思います。そうになると、誘うしかありません。

最近、「あなたから誘われたら、断れないから参加するわ」と言ってくださる方がいて、飛び上がるほどうれしかったです。そういう関係を少しずつ築いていけたらと思います。